



ヒイラギナンテン。

57編は **ダビデの詩、「滅ぼさないでください」**に合わせてとあります。ミクタムは曲想を指しますが、ミクタムと指定されている6つの詩編は、詩人が危急の際に救いを切望している詩ですから、悲痛な思いを表しているのではないのでしょうか。端書きに **ダビデがサウルを逃れて洞窟にいたとき(57:1)**とあります。サウルは勇敢で武勲の誉れ高いダビデを妬み、戦闘で戦死させるか、または刺客を送るなどして、殺そうとしました。ダビデはサウルを避けて、逃げなければなりません。死海に向かって広がるユダの山地に要害を求め、隠れざるをえませんでした。

一度、アドラムの洞窟に難を避けたことが記されています。アドラムはエラの谷に近い丘陵地帯です。ダビデの兄弟、親族がそこに集まり、**また、困窮している者、負債のある者、不満を持つ者も皆彼のもとに集まり、ダビデは彼らの頭領になった。四百人ほどの者が彼の周りにいた(サムエル上22:2)**と記されています。アドラムの洞窟はダビデを慕う大勢の人々が集結できる、広大なものだったのでしょう。

57編も最初に **憐れんでください／神よ、わたしを憐れんでください。わたしの魂はあなたを避けどころとし／災いの過ぎ去るまで／あなたの翼の陰を避けどころとします(57:2)**と、詩人は **慈しみとまこと**を遣わし、助けてくださいと求めています。洞窟の中にいても、詩人は獅子の中、火を吐く人の子らの中に伏し、彼らの歯は槍や矢、舌は剣のようで、詩人を狙っていると恐怖におののいています。彼らは詩人の足元に網、落とし穴を仕掛けたものの彼ら自身が落ちました。詩人は神に守られ、隠れることができました。不安と恐怖で一杯でしたが、助けられたのです。詩人は **わたしは心を確かにします。神よ、わたしは心を確かにして／あなたに賛美の歌をうたいます。目覚めよ、わたしの誉れよ／目覚めよ、豎琴よ、琴よ。わたしは曙を呼び覚まそう(57:8)**と、新たな思いで賛美します。願い求めた **あなたの慈しみは大きく、天に満ち／あなたのまことは大きく、雲を覆います(57:11)**と、感謝します。詩人は **神よ、天の上に高くいまし／栄光を全地に輝かせてください**と、神の支配が全地に及ぶことを繰り返し願っています。「讚美歌21」135「あわれみをたまえ」が57編を歌っています。

参照 <https://sanbika.blog.ss-blog.jp/2012-11-27>

不思議なことに、58編は **しかし**という言葉で始まっています。58編は、57編の詩人の対極にある **お前たち**について歌ったものと思われます。語り、裁く支配者であるサウルとその側近を詩人は糾弾しているのです。彼らは不正に振る舞い、不法に裁いている。それは神に逆らう者であると言います。彼らは **耳の聞こえないコブラのように耳をふさいで／蛇使いの声にも／巧みに呪文を唱える者の呪文にも従おうとしない(58:5)**のが特徴です。神の言葉に耳を傾けないばかりか、自分の親分である悪霊にも従いません。自分しか目に入らないのでしょうか。そのような者は捨てられ、衰え、溶け去るが良いと言います。 **神が彼らの口から歯を抜き去ってくださるように。主が獅子の牙を折ってくださるように。彼らは水のように捨てられ、流れ去るがよい。神の矢に射られて衰え果て／なめくじのように溶け／太陽を仰ぐことのない流産の子となるがよい。鍋が柴の炎に焼けるよりも速く／生きながら、怒りの炎に巻き込まれるがよい。(58:7)**詩人は、神ご自身が不正、不法を行う者を裁かれることを願っています。そして **人は言う。「神に従う人は必ず実を結ぶ。神はいます。神はこの地を裁かれる。」(58:12)**と結んでいます。「讚美歌21」に関連讚美歌はありませんが、ジュネーブ詩編歌があります。

参照 <https://www.youtube.com/watch?v=g3XA4BDt7dI&list=PLSVF7paNgo6DqMQf2E3RRXDdPf72-6Aw9&index=68>